

2016/6/3

賛「アベノミクス」

先ず、アベノミクス効果では、この3年半で、
日本全体の税収が21兆円増加し、
この業績を、野党もメディアも無視する。
この情報操作で、国民も事実を知ろうともしない。

G7後のメディアの話題は消費税に集中。
TV画面では、にわか仕立ての狩り出され専門家や解説者の、
皮肉さえ交じる感情的な論旨。

安倍総理が増税延期を表明すると、

① 約束違反とことを荒立て、

もし、増税を表明すれば、

② こんな時期に、事態も見えない増税に固執する首相と非難

この、①と②の両案を常に用意するのが、
マスコミや報道側の常とう手段で、これでメシが食える。
識者(?)さえ、これに乗る、
皆さん一緒にの「ローラー・コースター」方式。

21/3. 5=6兆円の増収は、
従来の年間の法人税が10兆円レベルであり、
その大きさが分かる。
目を転じて、韓国の2016年の国家予算(歳出)が、
331兆ウォン(33兆円)であり、
このまま日本が、財政効果を期待すれば、安倍総理は、
後の1年半で、
予算規模で、韓国を「一国設立」したことになる。

他国は、G7参加国も含めて、また、参加首脳陣も、
日本や安倍総理の実力を正当評価すると、
それぞれの国民の手前、自分のポジションが危うくなるので、
positive 評価をしないし、メディアの経済関係者には、
国際経済や財政学の基礎も分からないのが多い。

分かっているのは、必死に情勢分析をする、
金融関係のアナリストで、彼等は常に緊張感を持ち、
冷静に透徹した目で戦略を立てている。
その彼等は、アベノミクスを目下は、好意的に視ている。

また、野党（野盗 or 夜盗？）も、
「アベノミクス失敗」と声高に攻めるだけで、
岡田党首も無表情な「ダース・ベイダー」のような容顔で、
政権を追い詰めようとするが、迫力なく、
数値で事実を究明する者には、「引かれ者の小唄」に見える。

また、G7や日本を常に非難する、
中国や韓国やロシアが文句やクレームをつける場合こそ、
日本が正しいことをしている証拠であり、
彼らの「腹を読み切る」ことが国営の危機管理の第一歩。

今問題の一つに、日本の「財務省」が、
従来通りの思考で、「省庁で一番優秀」と思っているが、
政府からの様々な意見聴取や代案（戦略）づくりに、
まともに応えられず、「増税」と「財源確保」のスローガンだけで、
この緊迫した状況下で、
従来通りの手法で世渡りができると思い込んでいること。

彼等が学んだ「動態経済学」を駆使しても、
今の「超複雑系環境下」では、まともな答えは出てこない。
このことに、政権側が憂慮して、
今、「財務省改革」を進めているが、
これを公にすることはできない。
なぜなら、省庁は「省益優先で、結果、国は破滅」の、
回避不可能の「悪路歷程」だから。

ただ、「省庁を破壊することが国益にかなう」は、
世界共通の課題であり、日本に限ったことではない。
それを実行するか否かが分かれ目。
しかし、現実は厳しい！